

# 擬音語・擬態語と身体表現

—「ドタ系」を事例として—

坪倉紀代子・柴真理子  
三宅 香・徳家雅子

## I. 研究目的

筆者等は、擬音語・擬態語（以下、擬態語と記す）と動き、及びイメージの関係について、文字情報を刺激として、24の擬態語間について動きの型、運動、イメージの関係に一定の原則を見出してきた。そこで次に、擬態語を聴覚情報として与え、その刺激に基づいて、どのような動きで表現がなされるのか、即ち、擬態語と実際の動きとの関係を明らかにすることを目的として、先行研究の結果を踏まえて、「ドタ系」「フラ系」「クル系」を取り上げて実験を実施した。本研究では、まず、「ドタ系」の結果について報告する。

## II. 実験方法及び実験手順

被験者：日本体育大学ダンス部員10名

実験日時：1997年8月

「ドタ系」「フラ系」「クル系」それぞれをXY型、XYn(r)型、XY-n(r)型、XY~n(r)型の4つの型で発話し、カセットテープに録音したものを聴覚刺激とし、それを被験者1人ずつ順番に聞かせて即興で踊ることを求め、VTRに収録した。

## III. 動きの分析方法

動きの分析にあたっては、先行研究の検討から下記の様な分析の枠組みを設定し、その枠組みで分析したものを「動きのカタログ」と呼ぶことにした。本研究では、筆者等4人が一同に会してVTRで動きをみ、下記の枠組みで意見を交しながら分析を行った。その際、ヤンガーマン等の指摘を念頭に置き、実際の舞踊運動に即した用語を使用することに努め、将来的にはそれらの用語を洗練して舞踊用語の確立に繋げることを意図した。

表1. 4つの擬態語の動きの特徴

	ドタドタ	ドタンドタン	ドターンドターン	ドターンドターン
動きの数	1種類8人・2種類2人	1種類7人・2種類2人 3種類1人	1種類6人・2種類2人 3種類1人・4種類1人	1種類9人・6種類1人
下肢の運動	歩く⑨ 走る②  complex movement と jointed movement の割合…0%	跳ぶ-縮む② 跳ぶ④ 跳ぶ-捻る① 踏む③ 踏む×縮む①	跳ぶ-縮む② 跳ぶ② 跳ぶ-捻る① 踏む① 踏む×踏む② 回る② 歩く×前屈等、歩く系③	跳ぶ-縮む⑥ 跳ぶ① 跳ぶ-回る①  倒-転一起等、倒系③ 歩く×振る等、歩く系②
上肢の運動	静止⑤ 振る② 上げ下ろし②	振る⑤ 回す②  *上体の運動 捻る② 後屈①	振り上げ-振り下ろし③ 振る③ *上体の運動 捻る② 前屈-後屈①	振り上げ-振り下ろし③ 上げる② 回す② *上体の運動 捻る① 脱力①
姿勢	まっすぐ⑦ 前屈③ 前傾①	傾⑥ まっすぐ③ 前屈②	傾③ 前屈③ まっすぐ①	側傾① 前屈① まっすぐ①
レベル	2-③ 3-③ 4-③ 5-② 7-①	3-① 4-① 5-② 7-④ 4~2② 4~3① 7~4① 7~3②	4-④ 5-② 7-② 2~1① 3~2① 6~4① 6~3① 7~4① 7~3③ 7~2①	5-② 6-① 7-① 2~1① 3~1① 5~3① 6~3① 7~4② 7~3① 7~2③
顕著な動きの型	顕著な動きの型が認められた動き …なし	…6/14(42.9%) 「アクセントのある」 「強い」「重い」等	…8/17(47.1%) 「アクセントのある」 「軽い」「重い」等	…13/15(86.7%) 「アクセントのある」 「拡大的な」「重い」等

## IV. 結果と考察

表1には、4つの擬態語の動きの特徴をまとめた。これらから〈ドタドタ〉では身体のレベル、姿勢とも一定し、「歩く」というシンプルな動きを基本的な運動とみることができる。〈ドタンドタン〉では下肢の「跳ぶ」系、「踏む」系、上肢の「振る」運動が、〈ドターンドターン〉では下肢の「跳ぶ」系、「歩く」系、「踏む」系、上肢の「振り上げ振り下ろし」「振る」運動が、〈ドターンドターン〉では下肢の「跳ぶ」系、「倒れる」系、上肢の「振り上げ振り下ろし」の運動を基本的な運動とみることができるが、それらの運動は、擬態語の発話が長くなるほど、complex movements や jointed movements の占める割合が高くなり、下肢や上肢の動きに伴う上体の動きや上体自体が主となる動きが増えて一定の姿勢での動きが減少し、また一定のレベルでの動きも減少して高さの変化を伴う動きが増え、それに伴って、動きの型が顕著である動きも増加する傾向にあることがわかる。

## V. 総括

擬態語の基本形であるXY型の動きが単一のシンプルな動きであるのに対し、XYn(r)型、XY-n(r)型、XY~n(r)型と発話が長くなるほどからだの動きも複雑になる傾向が認められた。また、下肢の動きには共通な運動がみられるのに対し、上肢の動きには共通な運動への集中傾向が低く、これらの結果から、下肢の運動を基本として、その運動の空間性、形態性、時間性を変えることにより下肢の運動の多くのバリエーションを生み出すと共に、多様な上肢の運動のバリエーションとが相まって、各々の擬音語・擬態語の動きが生まれたとみることができよう。

- ①図像 ②下肢の運動および動き ③上肢の運動および動き ④姿勢 ⑤動きが顕著な部位 ⑥経路 ⑦レベル ⑧聴覚刺激との同期 ⑨顕著な動きの型